

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		国語	科 目	論理国語	単 位 数	2
学年・科		3年・普通科・文理探究コース				
教材	教科書	精選 論理国語（三省堂）				
	副教材					
学 習 目 標		多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。また、自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きていく力を育み、国語の力を育成する。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	一 言葉を見つめるⅡ 「対話」の言葉をつくる	・社会的視点から言葉を考える ・「対話」の言葉のあり方を考える	期末 考查
	二 国際社会を考える 南の貧困／北の貧困	・これからの国際社会の課題について考える ・現代の「貧困」問題を構造的に捉え直す	
2 学期	三 近代・現代社会を考える コンクリートの時代	・現代社会を歴史の中で捉え直す ・コンクリート建築から「近代」という時代の特徴を考える。	期末 考查
	四 心と向き合う 恐怖とは何か	・心についてさまざまな視点から考える ・人はなぜ「恐怖」を感じるのか、「自我」との関わりから理解する	
3 学期	五 経済について考える 落語の中の経済学	・経済との関わりから社会的課題について考える ・落語「千両みかん」を経済学的な視点で読み直す	

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。	進んで言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする言葉の働きを理解し、学習課題に沿って、関連する文章の書き手の立場や目的を考えながら内容の解釈を深め、比較して論じようとしている。

評価方法	定期考查のほか、課題やノートなどの提出物、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	日頃から言葉や文章に興味・関心を持ち、インターネットなどを活用して積極的に調べたり、辞書で確認したりしましょう。新書などを読んでみるのもよいでしょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		国語	科 目	古典探究	単 位 数	2
学年・科		3年・普通科・文理探究コース				
教材	教科書	新編 古典探究（東京書籍）				
	副教材	新しい古典の学習 2 in 1 スタイル 学ぶぞ 古文と漢文 大学入試 まめまめ古文単語300				
学 習 目 標		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				

	教材内容	学習内容	考査
1 学期	古文編 作り物語を味わう 源氏物語 光源氏の誕生 若紫	・場面や人物の設定に着目しながら、登場人物の行動や心情を捉える。 ・作り物語を多面的・多角的な視点から読み、考えを広げる。	中間考査
	漢文編 古詩を味わう 飲酒 子夜呉歌	・詩にうたわれた情景や作者の心情を読み取り、ものの見方や感じ方を豊かにする。 ・内容や表現の特色を理解し、古体詩を読み味わう。	期末考査
2 学期	古文編 歴史物語を読む 大鏡 道長、伊周の競射	・歴史物語の内容を的確に読み取り、登場人物の行動や心情を捉える。	中間考査
	漢文編 史話を味わう 勿頸之交 古文編 随筆を味わう 枕草子 中納言参り給ひて	・人間関係や時代状況を踏まえて、登場人物の人柄や言動を捉える。 ・随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉える。	期末考査
3 学期	漢文編 日本の漢詩文 信玄と謙信	・表現に込められた、豊かな詩情や内容を読み味わう。	

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。	進んで登場人物の行動や心情、起こった出来事などを捉え、感じたことを話し合おうとしている。 修辞などに注意しながら進んで文章の内容を読み取り、現代に通じる内容やテーマについて考察しようとしている。

評価方法	定期考査のほか、課題やノートなどの提出物、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	日頃から言葉や文章、伝統文化に興味・関心を持ちましょう。同じジャンルの他の作品を読んだり、比べ読みしたりするのもよいでしょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科 科		地 理 ・ 歴 史	科 目	地理探究	単 位 数	4
学 年 ・ 科		3 年 ・ 普 通 科 文理探究コース 理系				
教 材	教科書	地理探究（東京書籍） 新詳高等地図（帝国書院）				
	副教材	要点マスター 地理探究 整理と演習（東京書籍）				
学 習 目 標		社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	第1編 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 1節 世界の地形 2節 気候と自然環境 3節 気候と人の生活 4節 日本の自然環境と自然災害 第2章 産業と自然 1節 産業の発展と社会的課題 2節 農林産業 3節 食料問題 4節 エネルギーと資源 5節 資源・エネルギー問題 6節 工業の地と工業地域の発展 7節 第三次産業	地形、気候、生態系などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題などの地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考查し、表現する。	中間 期末 考查
2 学期	第3章 交通・通信、貿易、観光 1節 交通・通信 2節 貿易と経済 3節 観光 第4章 人口、村落・都市 1節 人口 2節 人口問題 3節 村落・都市 4節 都市と地域 第5章 生活文化、民族・宗教 1節 生活文化の地域性 2節 民族・言語・宗教 3節 民族問題 4節 現代の民族と領土問題 第2編 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分の意義と方法	交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解・考察する。 生活文化、民族・宗教などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、民族、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 世界の諸地域に関する各種の主題図や資料を基に、世界をいくつかの地域に区分する方法や地域概念、地域区分の意義などについて理解する。	中間 期末 考查
3 学期	第2章 現代世界の諸地域 1節 東アジア 2節 南アジア 3節 東南アジア 4節 西アジアと中東 5節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 6節 ヨーロッパ 7節 ロシア 8節 アンゴラ・アメリカ 9節 ラテンアメリカ 10節 オセアニア 第3編 現代世界と日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究 1節 日本の地理的課題を認識する 2節 持続可能な国土像の探究	幾つかの地域に区分した現代世界の諸地域を基に、地域的特色や地球的課題などについて理解し、地域の結び付き、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。 現代社会におけるこれからの日本の国土像について、地域の結び付き、構造や変容、持続可能や社会づくりなどに着目して、日本の抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを探究し、表現する。	

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

評価方法	1 知識・技能 … 定期考査の結果をもとに評価します。授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 2 思考・判断・表現 … 定期考査の結果や授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 3 主体的に学習に取り組む態度 … 授業態度・提出物などをもとに評価します。
アドバイス	地理を学ぶことが、みなさんの未来を平和で明るく、楽しくすることにつながります。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科 科		地理歴史	科 目	日本史探究	単 位 数	2
学年・科		3年・普通科 文理探究コース 文系				
教材	教科書	詳説日本史 日本史探究（山川出版社）				
	副教材	新詳日本史（浜島書店） 授業用詳説日本史整理ノート（山川出版社） 要点整理ゼミナール日本史（浜島書店）				
学 習 目 標		1 日本の歴史と世界の歴史を関連づけ、総合的に学ぶことで歴史的思考力を身に付けることを目指す。 2 歴史を学ぶことを通じて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	第3部 近世 1 幕藩体制の成立と展開 2 幕藩体制の動揺	江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解し、幕藩体制の確立期の経済・社会を多面的・多角的に考察する。 農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察し、欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕府の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。	中間 考查 期末 考查
2 学期	第4部 近代・現代 1 近世から近代へ 2 近代・現代の展望 3 近代国家の成立 4 近代国家の展開 5 近代の産業と生活	国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、日清戦争や日露戦争、第一次世界大戦に至る経緯について理解する。 民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。	中間 考查 期末 考查
3 学期	6 恐慌と第二次世界大戦 7 占領下の日本 8 高度成長の時代 9 激動する世界と日本 現代日本の課題と探究	日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展について考察する。 戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにとまう諸改革について、その経過と内容を理解する。	

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、それらを基に議論したりしている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

評価方法	1 知識・技能 … 定期考查の結果をもとに評価します。授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 2 思考・判断・表現 … 定期考查の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 3 主体的に学習に取り組む態度 … 授業態度・提出物などをもとに評価します。
アドバイス	歴史を学ぶことを通じて、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、現代日本の課題を探究することを目指しましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科 科		地理歴史	科 目	日本史研究	単 位 数	3
学年・科		3年・普通科 文理探究コース 文系				
教材	教科書	なし				
	副教材	新詳日本史（浜島書店） 要点整理ゼミナール日本史（浜島書店）				
学 習 目 標		1 史料に学ぶことで歴史的思考力を身に付けることを目指す。 2 史料を学ぶことを通じて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	室町文化 54 義満期の文化 55 庶民芸能の流行 56 義政期の文化 57 新仏教の発展 桃山文化 63 桃山文化 鎖国と寛永期の文化 69 寛永期の文化 経済の発展と元禄文化 78 諸学問の発達、79 元禄文化 80 儒学の興隆	室町時代の文化が武家文化と公家文化野融合が進んだことによって形成されたことを当時の政治・経済を背景に理解する。 桃山文化の特色が武家の権力を結集した天下人や大名の威勢、豪華さや壮大さにあることを室町時代の文化と比較しながら学習する。 江戸初期から江戸中期までの文化の変化を、将軍の代替わりと関連させながら学習する。	期末 考查
2 学期	宝暦・天明期の文化 84 学問・思想の発展 85 宝暦・天明期の文学・美術 幕府の衰退と化政文化 91 江戸後期の学問・思想 92 化政期の美術 殖産興業と明治初期の外交 102 文明開化	江戸中期から江戸後期までの文化の変化を、将軍の代替わりと関連させながら学習する。 幕末の思想・学問を倒幕運動や攘夷運動と関連させながら、理解する。 明治初期の文化を、当時の外交と関連させながら、世界的な視点も踏まえて学習する。	期末 考查
3 学期	近代文化の発達 124 教育の普及、125 科学の発達 126 近代文学、127 明治の美術 市民文化と恐慌の時代 129 大衆文化の成立 日中戦争と戦時下の文化 137 戦時下の文化	明治末期から大正時代にかけての市民の生活の変化を第一次世界大戦によって都市化と工業化が進んだことを考えながら学習する。 第二次世界大戦によって政府の厳しい統制下の文化を現代の生活と比較して理解する。	

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

評価方法	1 知識・技能 … 定期考查の結果をもとに評価します。授業中に行う作業学習などをもとに評価します。
	2 思考・判断・表現 … 定期考查の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。
	3 主体的に学習に取り組む態度 … 授業態度・提出物などをもとに評価します。
アドバイス	歴史を学ぶことを通じて、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、現代日本の課題を探究することを目指しましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科	公民	科 目	政治・経済	単 位 数	2
学年・科	3年・普通科 文理探究コース 文系				
教材	教科書	高等学校 政治・経済（第一学習社）			
	副教材	政治・経済ノート（第一学習社）			
学習目標		社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			

	教材内容	学習内容	考查
1 学 期	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題 第1章 現代日本の政治・経済 [政治分野] [経済分野] 第2章 現代日本の諸課題の探究	政治分野では、日本国憲法と現代政治のあり方、望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方を学習する。 経済分野では、市場経済の機能と限界、持続可能な財政および租税のあり方、金融を通じた経済活動の活性化、経済活動と福祉の向上を学習する。	中間 考 査 期 末 考 査
2 学 期	第2編 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治・経済 [政治分野] [経済分野] 第2章 国際社会の諸課題の探究	政治分野では、国際法の果たす役割、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について学習する。 経済分野では、相互依存関係が深まる国際経済の特質、国際経済において求められる日本の役割について学習する。	中間 考 査 期 末 考 査
3 学 期	現代社会の諸課題	個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して学習する。公正さの観点として、手続きの公正さや、機会の公正さ・結果の公正さに留意する。	

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断している。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

評価方法	1 知識・技能 … 定期考査の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 2 思考・判断・表現 … 定期考査の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 3 主体的に学習に取り組む態度 … 授業態度・提出物などをもとに評価します。
アドバイス	現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科	数学	科 目	数学Ⅲ	単 位 数	3
学年・科	3年 普通科 文理探究コース 理系				
教材	教科書	新編 数学Ⅲ (数研出版)			
	副教材	新課程 教科書傍用 3 TRIAL 数学Ⅲ+C (数研出版)			
学習目標		極限、微分法及び積分法の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を身に付ける。			

	教材内容	学習内容	考查
1 学 期	第1章 関数	・分数関数や無理関数の性質を理解し、それを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。	中間 考 査 期 末 考 査
	第2章 極限 第1節 数列の極限	・数列の極限の概念を理解し、様々な数列の極限が求められるようにするとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	第2節 関数の極限	・関数の極限について理解し、関連して関数の連続性についても理解するとともに、それらを様々な関数の考察に活用できるようにする。	
2 学 期	第3章 微分法・ 第1節 導関数	・微分係数や導関数の定義を理解し、様々な性質や公式を導き、計算に活用できるようにする。	中間 考 査 期 末 考 査
	第2節 いろいろな関数の導関数	・いろいろな関数の導関数を導き、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	第4章 微分法の実用 第1節 導関数の応用	・接線、関数の増減、グラフなどに導関数を積極的に活用できるようにする。	
	第2節 いろいろな応用	・関数のグラフを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。	
3 学 期	第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分	・様々な関数の不定積分やその計算法則を導関数をもとにして考え、不定積分を求められるようにする。	期 末 考 査
	第2節 定積分	・様々な関数の定積分を求められるようにするとともに、定積分を面積として捉え、事象の考察に活用できるようにする。	
	第3節 積分法の応用	・定積分を活用して、面積、体積、曲線の長さなどを求められるようにし、定積分の理解をさらに深める。	

評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力が身に付いている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身に付いている。

評価方法	考查・授業ノート・提出物・小テスト・授業での応答など、全ての学習活動を評価の対象とし、上記の3つの評価基準から総合的に評価します。
アドバイス	日々の授業を大切にし、課題に丁寧に取り組んで、継続して学習を積み重ねていきましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		数学	科 目	数学C	単 位 数	3
学年・科		3年 普通科 文理探究コース 理系				
教材	教科書	新編 数学C (数研出版)				
	副教材	新課程 3 TRIAL 数学Ⅲ+C (数研出版)				
学 習 目 標		ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を身に付ける。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学 期	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算	・ベクトルの意味およびその演算や内積について理解し、ベクトルのなす角について考察できるようにする。	中間 考查 期末 考查
	第2節 ベクトルと平面図形	・位置ベクトルについて理解し、図形の性質を調べるのに活用できるようにする。	
	第2章 空間のベクトル	・平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。	
2 学 期	第3章 複素数平面	・複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し、図形の考察に複素数を活用できるようにする。	中間 考查 期末 考查
	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線	・放物線、楕円、双曲線の定義や性質を理解し、それらを図示したり、問題の解決に活用したりできるようにする。	
	第2節 媒介変数表示と極座標	・曲線の媒介変数表示と極座標の仕組みを理解し、様々な図形について考察できるようにする。	
3 学 期	まとめ・総復習	・数学Cの内容全般について総復習をし、数学の有用性を認識したり、事象の考察に活用したりする。	

評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が身に付いている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身に付いている。

評価方法	考查・授業ノート・提出物・小テスト・授業での応答など、全ての学習活動を評価の対象とし、上記の3つの評価規準から総合的に評価します。
アドバイス	日々の授業を大切に、課題に丁寧に取り組んで、継続して学習を積み重ねていきましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		数 学	科 目	数学C	単 位 数	1
学年・科		3年 普通科 文理探究コース 文系				
教材	教科書	新編 数学C (数研出版)				
	副教材	新課程 Study-upノート 数学C (数研出版)				
学 習 目 標		平面と空間のベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学 期	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形 第2章 空間のベクトル	・ベクトルの意味およびその演算や内積について理解し、ベクトルのなす角について考察できるようにする。 ・位置ベクトルについて理解し、図形の性質を調べるのに活用できるようにする。 ・平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。	中間 考 査 期 末 考 査
2 学 期			
3 学 期			

評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が身に付いている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身に付いている。

評価方法	考查・授業ノート・提出物・小テスト・授業での応答など、全ての学習活動を評価の対象とし、上記の3つの評価規準から総合的に評価します。
アドバイス	日々の授業を大切にし、課題に丁寧に取り組んで、継続して学習を積み重ねていきましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科 科		数学	科 目	数学C	単 位 数	1
学年・科		3年 普通科 文理探究コース 理系				
教材	教科書	新編 数学C (数研出版)				
	副教材	新課程 教科書傍用 3 TRIAL 数学C (数研出版)				
学 習 目 標		平面と空間のベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学 期	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形 第2章 空間のベクトル	- ベクトルの意味およびその演算や内積について理解し、ベクトルのなす角について考察できるようにする。 - 位置ベクトルについて理解し、図形の性質を調べるのに活用できるようにする。 - 平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。	中間 考 査 期 末 考 査
2 学 期			
3 学 期			

評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が身に付いている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身に付いている。

評価方法	考查・授業ノート・提出物・小テスト・授業での応答など、全ての学習活動を評価の対象とし、上記の3つの評価規準から総合的に評価します。
アドバイス	日々の授業を大切にし、課題に丁寧に取り組んで、継続して学習を積み重ねていきましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		数 学	科 目	数 学 探 究 I	単 位 数	3
学年・科		3年 普通科 文理探究コース 文系・理系				
教材	教科書	数学探究 I (小松高校数学科編)				
	副教材	リンクI・A $a+b+c$ (数研出版)				
学 習 目 標		数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、及び図形の性質の基礎的な知識と技能を習得して、事象を数学的に考察する力や、数学のよさを認識して活用する態度を身に付ける。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学 期	第1章 数と式	- 式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする。 - 不等式の解の意味や不等式の性質について学習し、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする。	中間 考 査
	第2章 集合と命題	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	
	第3章 2次関数	2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。 2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	期 末 考 査
2 学 期	第4章 図形と計量	三角比の意味やその基本的な性質について学習し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、問題解決に三角比を活用できるようにする。	中間 考 査
	第5章 データの分析	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を学習し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、批判的に考察したりできるようにする。	
	第6章 場合の数と確率	場合の数や確率の意味や基本的な法則について学習し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	期 末 考 査
3 学 期	第7章 図形の性質	平面図形・空間図形の基本的な図形について、知識を深める。また、図形の構造を直感的に見いだし、それを論理的に示す力を身に付ける。	

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	各単元についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。	条件や結論に着目し数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察し、判断する力が身に付いている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身に付いている。

評価方法	考查・授業ノート・提出物・小テスト・授業での応答など、全ての学習活動を評価の対象とし、上記の3つの評価規準から総合的に評価します。
アドバイス	日々の授業を大切に、課題に丁寧に取り組んで、継続して学習を積み重ねていきましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教科	数 学	科 目	数 学 探 究 II	単 位 数	1
学年・科	3年 普通科 文理探究コース 文系				
教材	教科書	数学探究II (小松高校数学科編)			
	副教材	基礎徹底演習 共通テスト (ベネッセコーポレーション)			
学習目標		数学IIの式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法、数学Bの数列、統計的な推測及び数学Cのベクトルの基礎的な知識と技能を習得して、事象を数学的に考察する力や、数学のよさを認識して活用する態度を身に付ける。			

	教材内容	学習内容	考查
1 学期			
2 学期	第1章 式と証明	・多項式の乗法・除法及び分数式の四則演算について学習する。	中間 考查
	第2章 複素数と方程式	・方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。	
	第3章 図形と方程式	・座標や式を用いて円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識したり、事象の考察に活用したりする。	
	第4章 三角関数	・角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。	
	第5章 指数関数と対数関数	・指数関数・対数関数について学習し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	第6章 微分法と積分法	・微分・積分の考えについて学習し、それらの有用性を認識したり、事象の考察に活用したりする。	
	第7章 数列	・数列やその一般項の表し方や基本的な数列として等差数列、等比数列とその和や Σ について学習し、これらの数列を様々な事象の考察に活用できるようにする。	
3 学期	第8章 統計的な推測	・確率変数と確率分布について学習し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	期末 考查
	第9章 ベクトル	・平面ベクトル、空間ベクトルを学習し、ベクトルの大きさや内積等を求めることを通じてベクトルの特徴を把握できるようにする。	

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	各単元についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。	条件や結論に着目し数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し図形と方程式について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察し、判断する力が身に付いている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身に付いている。

評価方法	考查・授業ノート・提出物・小テスト・授業での応答など、全ての学習活動を評価の対象とし、上記の3つの評価規準から総合的に評価します。
アドバイス	日々の授業を大切に、課題に丁寧に取り組んで、継続して学習を積み重ねていきましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		数 学	科 目	数 学 探 究 II	単 位 数	2
学年・科		3年 普通科 文理探究コース 理系				
教材	教科書	数学探究II（小松高校数学科編）				
	副教材	基礎徹底演習 共通テスト（ベネッセコーポレーション）				
学 習 目 標		数学Ⅱの式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法、及び数学Bの数列、統計的な推測の基礎的な知識と技能を習得して、事象を数学的に考察する力や、数学のよさを認識して活用する態度を身に付ける。				

	教材内容	学習内容	考査
1 学 期			
2 学 期	第1章 式と証明	・多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について学習する。	中間 考査
	第2章 複素数と方程式	・方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。	
	第3章 図形と方程式	・座標や式を用いて円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識したり、事象の考察に活用したりする。	
	第4章 三角関数	・角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。	
	第5章 指数関数と対数関数	・指数関数・対数関数について学習し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	期末 考査
	第6章 微分法と積分法	・微分・積分の考えについて学習し、それらの有用性を認識したり、事象の考察に活用したりする。	
	第7章 数列	・数列やその一般項の表し方や基本的な数列として等差数列、等比数列とその和や Σ について学習し、これらの数列を様々な事象の考察に活用できるようにする。	
3 学 期	第8章 統計的な推測	・確率変数と確率分布について学習し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	
	第9章 ベクトル	・平面ベクトル、空間ベクトルを学習し、ベクトルの大きさや内積等を求めることを通じてベクトルの特徴を把握できるようにする。	

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	各単元についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。	条件や結論に着目し数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し図形と方程式について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察し、判断する力が身に付いている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身に付いている。

評価方法	考査・授業ノート・提出物・小テスト・授業での応答など、全ての学習活動を評価の対象とし、上記の3つの評価規準から総合的に評価します。
アドバイス	日々の授業を大切に、課題に丁寧に取り組んで、継続して学習を積み重ねていきましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教科	理科	科目	物理	単位数	5
学年・科	3年 普通科 文理探究コース 理系				
教材	教科書	高等学校 物理 (数研出版)			
	副教材	アクセスノート 物理 (実教出版)			
学習目標		1 物理的な事物・現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養うことを目指します。 2 進路目標に応じた理数系の能力を身に付けることを目指します。			

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	第I章 運動とエネルギー 第1節 平面運動と放物運動 第2節 剛体のつりあい 第3節 運動量の保存 第4節 円運動と単振動 第5節 気体の性質と分子の運動	・平面運動、放物運動 ・剛体にはたらく力とその合力、剛体の重心のつりあい ・運動量と力積、運動量保存の法則、反発係数 ・円運動、慣性力と遠心力、単振動、万有引力による運動 ・気体の法則、気体の分子運動、気体の内部エネルギー	中間 考查
	第II章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波 第3節 光波	・正弦波、波の伝わり方 ・音の伝わり方、ドップラー効果 ・光の性質、レンズと鏡、光の回折と干渉	期末 考查
2 学期	第III章 電気と磁気 第1節 電場と電位 第2節 電流 第3節 電流と磁場	・静電気力、電場、電位、コンデンサー ・電流と抵抗、直流回路、半導体 ・磁場、電流がつくる磁場、電流が磁場から受ける力 ローレンツ力 ・電磁誘導、事故誘導と相互誘導、交流、電磁波	中間 考查
	第IV章 原子 第1節 電子と光	・電子、光の粒子性、X線、粒子の波動性	期末 考查
3 学期	第IV章 原子 第2節 原子と原子核	・原子の構造、原子核と放射線、核反応とエネルギー 素粒子と宇宙	学年 末 考查

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

評価方法	定期考查、課題やノートなどの提出物、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価する。
アドバイス	身のまわりのさまざまな事象が、物理と密接に関わっていることを理解し、法則性などを調べて授業内容と関連させていこう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科 科	理科	科 目	化学	単 位 数	3
学年・科	3年・普通科 文理探究コース 理系				
教材	教科書	高等学校 化学（第一学習社）			
	副教材	新編アクセス総合化学（浜島書店），レッツトライノート化学vol.3, vol.4（東京書籍）			
学 習 目 標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を化学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	第Ⅲ章 無機物質 第1節 周期表と元素の性質 第2節 非金属元素 第3節 典型金属元素 第4節 遷移元素	・元素の分類を理解する。 ・典型元素の性質が周期表にもとづいて整理できることを理解する。 ・元素とその化合物について、性質や用途を理解する。 ・無機物質の製法について理解する。 ・無機物質を、日常生活および化学工業に関連付けて理解する。 ・無機物質について観察・実験を行い、規則性やさまざまな事象が生じる要因や仕組みを科学的に理解する。	中間 期末 考查
2 学期	第Ⅳ章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴 第2節 脂肪族炭化水素 第3節 酸素を含む脂肪族化合物 第4節 芳香族化合物	・有機化合物の特徴と分類について理解する。 ・有機化合物の構造式を決定するまでの過程を理解する。 ・飽和炭化水素、不飽和炭化水素、酸素を含む脂肪族化合物、芳香族化合物の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。 ・不飽和炭化水素の構造について、シス・トランス異性体を学習するとともに、性質や反応を関連付けて理解する。 ・有機化合物の性質や反応性について、日常生活に関連付けて理解する。 ・構造異性体や鏡像異性体を論理的に理解する。	中間 期末 考查
3 学期	第Ⅴ章 高分子化合物 第1節 高分子化合物 第2節 天然高分子化合物 第3節 合成高分子化合物	・高分子化合物の特徴を理解する。 ・単糖、二糖、多糖、再生繊維、半合成繊維、α-アミノ酸、タンパク質、核酸について、その構造や性質を理解する。 ・合成高分子化合物の特徴や分類を理解する。 ・合成繊維、合成樹脂、機能性高分子、天然ゴム、合成ゴムについて、その構造や性質、用途を理解する。 ・合成樹脂、機能性高分子の製法や構造、性質、用途を理解する。	学年 末 考查

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	化学的な事象・現象についての化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	化学的な探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験による検証から、分析や解釈をしようとしている。 報告書の作成をしたり、発表したりして、科学的に探究する力を身に付けている。	化学的な事物・現象に対して、主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し、科学的に探究しようとしている。 学習課題に対して積極的に取り組み、意欲的に探究しようとする。

評価方法	定期考査のほか、課題やノートなどの提出物、小テスト、授業の取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	身近な現象に興味・関心を持ち、インターネットなどを活用して積極的に調べたり、化学に関する本で確認したりしましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科 科		理科	科 目	生物基礎	単 位 数	2
学年・科		3年 普通科 文理探究コース (文系)				
教材	教科書	高校生物基礎 (実教出版)				
	副教材	新編 アクセス生物基礎 (浜島書店)				
学 習 目 標		2年次の学習内容を深化させ、日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての知識・理解を深める。また、実験観察などを通して、科学的に探究する力を身に付けるとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				

	教材内容	学習内容	考査
1 学 期	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 2節 生物とエネルギー 第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA	- 生物の多様化と共通性について理解する。 - 細胞とその内部構造について、実験観察を通して学習する。 - 呼吸と光合成の概要から、生命活動のエネルギーと代謝について、また酵素の働きについて学習する。 - 光合成や呼吸とATPのはたらきについて理解する。 - DNAの構造や性質、DNA、遺伝子、ゲノムの関係性を、研究史などを通して理解する。 - 体細胞分裂の際のDNAの複製と分配の仕組み、細胞周期との関係性を理解する。	中間考査 期末考査
2 学 期	2節 遺伝情報とタンパク質の合成 第3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 2節 体内環境の維持のしくみ 3節 免疫	- 生命現象にはタンパク質が関わっていること、タンパク質はDNAの遺伝情報に基づき合成されることを学ぶ。 - 動物は内部環境としての体液をもち、体液は外部環境が変化しても一定に保たれていることを理解する。 - 恒常性と神経系と内分泌系の働きについて理解する。 - 血糖濃度調節のしくみと、起因する疾患について学ぶ。 - ヒトを中心に生体防御の仕組み、体液性免疫や細胞性免疫について理解する。 - 同じ疾患に再度かかりにくい理由を考察し、二次応答のしくみについて学習する。 - ヒトの身近な免疫疾患について理解を深める。	中間考査 期末考査
3 学 期	第4章 生物の多様性と生態系 1節 生態系とその成り立ち 2節 植生とバイオーム 3節 生態系と生物の多様性 4節 生態系のバランスと保全	- 生物が地球上の様々な環境に適応することにより生態系の多様性がもたらされていることを理解する。 - 遷移が進行する理由について学び、周囲の環境について考察する。 - 地球上には多くのバイオームが成立している理由について学習する。 - 人為的攪乱により生態系のバランスが崩れる場合があることを理解する。 - 生態系の保全の重要性について認識する。 - 自然環境の保全に寄与する態度を育てる。	学年末考査

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察実験を行い、基本的な概念や原理・法則を理解している。また、観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象についての探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、仮説の設定、実験の計画及び検証、データ分析、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書の作成や発表を通して適切に表現する力が身に付いている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとするなど、科学的に探究する態度が身に付いている。また、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が身に付いている。

評価方法	定期考査のほか、課題やノートなどの提出物、小テスト、実験観察の技能や態度、授業に取り組む姿勢などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	自分の身の回りの生物や生物現象に関心を持ち、授業で学んだ原理や法則が日常生活や普段見聞きする自然現象、社会現象とどのように関係しているか、考えながら生活しましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教科	理科	科目	生物	単位数	5
学年・科	3年 普通科 文理探究コース (理系)				
教材	教科書	高等学校 生物 (第一学習社)			
	副教材	アクセスノート生物 (実教出版)			
学習目標		- 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な探究に必要な観察、実験などの基本的な技能を身に付ける。 - 生物や生物現象について見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 - 生物や生物現象に主体的に関わり探究する態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。			

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	第1章 生物の進化 1. 生命の起源と細胞の進化 2. 遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 3. 進化のしくみ	- 生命の起源に関する考えを理解するとともに、細胞の進化を地球環境の変化と関連付けて学習する。 - 突然変異と生物の形質の変化との関係を見いだして理解する。 - 交配実験の資料や観察、実験などに基づき、遺伝子の組合せの変化や遺伝子頻度の変化について理解するとともに、それらが生物の進化にどう関係するのかを見いだして理解する。 - 生物の系統と塩基配列やアミノ酸配列との関係を学習する。 - 資料に基づき、人類の系統と進化を、形態的特徴などと関連付けて学習する。 - 細胞を構成する物質を細胞の機能と関連付けて理解する - タンパク質の機能を生命現象と関連付けて理解する。 - 呼吸及び光合成をエネルギーの流れと関連付けて理解する。	中間 考查 期末 考查
	第2章 生物の系統と進化 1. 生物の系統 2. 人類の系統と進化		
	第3章 細胞と分子 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質 3. 生命現象とタンパク質		
	第4章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 炭酸同化 3. 異化		
2 学期	第5章 遺伝情報の発現と発生 1. DNAの複製 2. 遺伝子の発現	- 資料に基づき、DNAの複製のしくみ及び遺伝子の発現について学習する。 - 遺伝子の発現が調節されていることを見だし、転写の調節についてそれに関わるタンパク質と関連付けて理解する。 - 資料に基づいて、発生の過程における分化のしくみを遺伝子発現の調節と関連付けて理解する。 - 遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を学習する。 - 刺激の受容と反応に関する資料に基づいて、外界の刺激を受容し神経系を介して反応するしくみを、関与する細胞の特性と関連付けて理解する。 - 動物の行動を神経系の働きと関連付けて学習する。 - 植物の環境応答に関する観察、実験などを行い、植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見いだして理解する。	中間 考查 期末 考查
	第6章 遺伝子の発現調節と発生 1. 遺伝子の発現調節 2. 発生と遺伝子の発現		
	第7章 遺伝子を扱う技術とその応用 1. 遺伝子を扱う技術 2. 遺伝子を扱う技術の応用		
	第8章 動物の反応と行動 1. 刺激の受容と反応 2. 動物の行動		
	第9章 植物の成長と環境応答 1. 植物と環境 2. 植物の一生と植物ホルモン		
3 学期	第10章 生態系のしくみと人間の関わり 1. 個体群と生物群集 2. 生態系の物質生産と消費 3. 生態系と人間生活	- 個体群が維持されるしくみや個体間の関係性を学習する。 - 資料に基づいて、生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環とを関連付けて理解する。 - 人間生活が生態系に及ぼす影響について学習する。	学年 末 考 査

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けている。

評価方法	定期考查のほか、実験観察の技能やレポートの内容、課題やノートなどの提出物、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	普段の生活で見聞きする生物や生物現象について関心を持ちましょう。学習内容を関連付けて考えられるようになると、学習内容の定着が図れます。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		理科	科 目	化学研究	単 位 数	2
学年・科		3年・普通科 キャリア探究コース（総合）、文理探究コース 文系				
教材	教科書	化学研究（小松高校理科編）				
	副教材	学校設定科目用学校作成教材				
学 習 目 標		物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を化学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。				

	教材内容	学習内容	考查
1学期	第1章 物質の構成 第1節 物質の構成 第2節 物質と化学結合	- 身近な物質を取り上げ、混合物から純物質を分離する操作と科学的に探究する方法を身に付ける。 - 身近な物質を取り上げ、単体や化合物について理解する。 - 粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係により、物質の状態変化が起こることを理解する。 - 原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解する。 - イオン結合がイオン間の静電的な引力による結合であることや、イオン結合でできた物質の性質を理解する。 - 電子配置と共有結合を関連付け、分子の性質を理解する。 - 自由電子と金属結合を関連付け、金属の性質を理解する。	中間 期末 考查
2学期	第2章 物質の変化 第1節 物質質量と化学反応式 第2節 酸・塩基	- 粒子の数にもとづく量の表し方である物質質量の概念を導入し、物質質量と質量、物質質量と気体の体積との関係について理解する。 - 水溶液の濃度をモル濃度で表したり、濃度の分かっている水溶液中の溶質の物質質量を求めたりすることができる。 - 化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解する。 - 酸と塩基の定義や分類を理解し、酸と塩基を価数や強弱にもとづいて分類することができる。	中間 期末 考查
3学期	第3章 酸化還元反応	- 酸と塩基の反応の量的関係を物質質量と関連付ける。 - 中和滴定の実験を通して、それぞれの操作がどのような意味をもっているのかを理解し、実験結果に対してどのような影響があるかを考察できる。 - 酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。 - 酸化還元反応を酸化数の増減によって判断できる。 - 酸化還元反応の量的関係を理解する。 - 金属のイオン化傾向や金属の反応性を理解する。 - 酸化還元反応の利用例として、電池や電気分解などがあることを理解し、電池の基本的な知識を身に付ける。	学年 末 考查

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などの、基本的な操作を身に付けている。	自然界や産業界にある事物・現象の中に問題を見つけ、科学的に探究する過程を通して、科学的・論理的に導き出した考えを的確に表現することができる。	自然の事物・現象に関わり、科学的に探究しようとしている。 自然の原理・法則や科学技術と私たちの生活との関わりから、化学に対する興味・関心を高めている。

評価方法	定期考查のほか、課題やノートなどの提出物、小テスト、授業の取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	身近な現象に興味・関心を持ち、インターネットなどを活用して積極的に調べたり、化学に関する本で確認したりしましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教科	理科	科目	地学研究	単位数	2
学年・科	3年・普通科 キャリア探究コース（総合）、文理探究コース 文系				
教材	教科書	地学学習帳（愛媛県高等学校教育研究会理科部会地学部門会）			
	副教材	リードLightノート地学基礎（数研出版）			
学習目標		地震活動、火山活動、気象、天体などの地球科学にかかわる現象について、実験活動や問題演習を通じて、理解を深める。また、地球環境問題や自然災害などを通して、減災の意識を向上させるとともに、自然環境の保全に寄与する態度をさらに高める。			

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	1 経線の長さの比較 2 地震波と地球の内部構造 3 大陸移動 4 海洋底拡大 5 太平洋プレートの移動 6 震央と震源の深さの決定 7 兵庫県南部地震の震度分布 8 P波の初動分布と断層 9 日本付近の震源分布	- 緯度による経線の違いを学習することにより、地球の形が赤道方向に膨らんだ楕円体であることを理解する。 - プレート運動によって、地表面で地震や火山活動が起きていることや、大量絶滅を引き起こしていることを理解する。 - 大森公式を理解し、地表面付近で起こる地震について、震源距離を計算によって導く。 - P波の初動分布から断層運動を推定する。	中間 期末 考查
2 学期	10 火山灰の観察 11 火成岩の分類(1) 12 火成岩の分類(2) 13 結晶の生成過程の観察 14 日射量の測定 15 雲の発生のモデル実験と過冷却水 16 陸海風 17 天気の変化 18 海水の塩分濃度と緯度別蒸発量の関係	- 火山灰の観察から、火山灰が鉱物からなることを学習し、グラウンドの砂なども鉱物であることを理解する。 - 火成岩の分類において、火成岩の種類によって密度が異なり、密度が異なることから火成岩を構成している鉱物が異なることを理解する。 - 比熱の違いによって、同じ日射量でも低気圧を形成する場所と高気圧を形成する場所が異なるということを理解する。 - 日本列島付近の地理的特徴と気候の変化についての関係性を理解する。	中間 期末 考查
3 学期	19 太陽表面の観察 20 太陽の運動 21 地球温暖化 22 オゾン層の破壊 23 海水面積の変化 24 海水温とエルニーニョの関係	- 太陽表面の黒点の観察から太陽が自転していることを理解し、緯度ごとの自転速度の違いから、太陽がガス球であることを学習する。 - 地球規模で生じている環境問題について、実習を通じてまとめることで、理解を深めるとともに、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	学年 末 考查

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、地球科学についての観察実験を行い、基本的な概念や原理・法則を理解している。また、観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	地球科学についての探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、仮説の設定、実験の計画及び検証、データ分析、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書の作成や発表を通して適切に表現する力が身に付いている。	地球科学に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとしている。その際、自然環境の保全に寄与する態度が身に付いている。

評価方法	定期考查のほか、課題やノートなどの提出物、小テスト、授業の取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	自分の身の回りの地球科学の現象に関心を持ち、授業で学んだ原理や法則が日常生活や普段見聞きする自然現象、社会現象とどのように関係しているか、考えながら生活しましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		保健体育	科 目	体育	単 位 数	2
学年・科		3年 普通科				
教材	教科書	現代高等保健体育				
	副教材					
学 習 目 標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を身に付ける。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	1 オリエンテーション 2 体づくり運動 3 陸上競技 4 選択制授業1 ソフトボール、テニス、バドミントン、バレーボール 5 体育理論1 生涯スポーツの見方・考え方	・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などについて学習する。 ・ペースの変化に対応して走り、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などについて学習する。 ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などについて学習する。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について学習する。	
2 学期	6 選択制授業1 7 体づくり運動 8 選択制授業2 サッカー、テニス、バスケットボール、バドミントン 9 体育理論2 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 10 ウォークラリー	・健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことについて学習する。 ・作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することについて学習する。 ・ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について学習する。また、スポーツの推進は、様々な施策や組織、人々の支援や参画によって支えられていることを学習する。	
3 学期	11 選択制授業3 サッカー、卓球、バスケットボール、バドミントン 12 体育理論3 豊かなスポーツライフの創造	・作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することについて学習する。 ・スポーツの可能性と問題点を踏まえて、適切な「する、みる、支える、知る」などの関わり方について学習する。	

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

評価方法	学習カードやスキルテスト、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	生涯にわたって運動を豊かに継続することができるよう、体を動かすことの心地よさや、仲間と協力して活動することの楽しさを味わいましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションⅢ	単 位 数	4
学年・科	3年・普通科 文理探究コース				
教科書	Power On English Communication Ⅲ (東京書籍)				
副教材	Power On English Communication Ⅲ WORKBOOK (東京書籍)				
学習目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、支援をほとんど活用しなくても、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりすることができる能力を養う。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	Lesson 1 Library of the Future	・現在分詞の分詞構文 ・関係副詞 where	中間 考查 期末 考查
	Lesson 2 History Maker Otani Shohei	・現在完了進行形 ・be 動詞+to 不定詞]	
	Lesson 3 Zoo Dentists: How They Work for Zoo Animals	・比較表現 ・S+V [使役] + O+C [原形不定詞]	
	Lesson 4 Nature Photographer in Alaska	・関係代名詞の非制限用法 ・関係代名詞 what ・分詞構文	
2 学期	Lesson 5 A Science Award That Makes You Laugh, and Then Think	・S+V+O+C ・過去完了進行形 ・受け身	中間 考查 期末 考查
	Lesson 6 Where Does Halloween Come from?	・ディスコースマーカー① [追加]	
	Lesson 7 Will 3D Printing Technology Change the World?	・事実と意見	
	Lesson 8 A Conductor of the Underground Railroad	・ディスコースマーカー② [時間順序]	
3 学期	Lesson 9 English, Always Growing	・ディスコースマーカー③ [列挙]	学年 末 考 査
	Lesson 10 Understanding the Culture of Dogs	・ディスコースマーカー④ [追加]	
	Optional Reading 1 Charlie and the Chocolate Factory	・本文の内容を説明する、内容に共感する、内容を要約する	
	Optional Reading 2 October Sky and the Rocket Boys	・本文の内容を説明する、内容を推論する、内容に対して意見を述べる、内容に共感する	

評価 の 観 点 の 趣 旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・学習内容の理解を基に、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付けている。	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えている。	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えようとしている。

評価方法	定期考查のほか、実力テスト、授業での小テスト、パフォーマンステスト、課題やノートなどの提出物、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に判断します。
アドバイス	わからない単語や熟語は、辞書を引いて確認しましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		外国語	科 目	論理・表現Ⅲ	単 位 数	2
学年・科		3年・普通科キャリア探究コース（総合）、文理探究コース				
教材	教科書	My Way Logic and Expression Ⅲ（三省堂）				
	副教材	My Way Logic and Expression Ⅲ WORKBOOK（三省堂）				
学 習 目 標		話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕及び書くことの三つの領域を中心とした総合的な言語活動を通して、発信能力を強化するための発展的な活動を行うとともに、支援をほとんど活用しなくても、論理の構成や展開を工夫して、話したり書いたりして相手に伝える、又は相互に伝え合うことができる能力を養う。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	Lesson 1 Survey Results	・動詞の種類	中間 考查 期末 考查
	Lesson 2 Writing an Email	・時制	
	Lesson 3 Writing a Blog	・助動詞	
	Lesson 4 Describing Activities	・不定詞・動名詞	
	Lesson 5 Suggesting What to Buy	・分詞・分詞構文	
	Lesson 6 Making a Proposal	・比較	
2 学期	Lesson 7 Making a speech	・関係詞	中間 考查 期末 考查
	Lesson 8 Writing an Invitation	・仮定法	
	Lesson 9 Suggesting a Solution	・名詞・代名詞	
	Lesson 10 Talking about the Future	・前置詞・接続詞	
	Situation 1 At the Airport	・入国審査	
	Situation 2 Homestay	・ルール説明	
	Situation 3 Gifts from Japan	・文化の説明	
	Situation 4 Lost Items	・電話での問い合わせ	
	Situation 5 Scheduling a Meeting	・時刻の表現	学年 末 考 査
	Situation 6 Visitor Information Center	・ツアーの説明	
3 学期	Situation 7 At a Restaurant	・注文のしかた	
	Situation 8 At the Doctor's Office	・病状を伝える	
	Situation 9 Buying a Ticket	・価格の理解	
	Situation 10 At a Cafe	・社会を語る	

評価 の 観 点 の 趣 旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きや役割を理解している。 - 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたり伝え合うことができる技能を身に付けている。	場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。	- 外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、自律的・主体的に表現しようとしている。 - 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自分の意見や考えなどを整理し、多様な語句や文を用いて、詳しく話したり書いたりして伝え合おうとしている。
評価方法	定期考查のほか、授業での小テストやパフォーマンステスト、課題への取組や授業態度などを考慮して、総合的に評価します。		
アドバイス	間違いを恐れずに、積極的に英語を話したり書いたりするように努めましょう。日頃から外国の文化やニュースにも関心を持ちましょう。		

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		外国語	科 目	英語研究B	単 位 数	2
学年・科		3年・普通科キャリア探求コース(総合)、文理探究コース(文系)				
教材	教科書	NEWSBREAKS for Basic English Learners 2024 (株式会社エミル出版)				
	副教材					
学 習 目 標		時事的な教材を通して、読むこと、書くこと及び話すこと〔発表〕の三つの領域を中心とした発信能力を育成する。特に、スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、段落の要約を書くことなどを通して、論理の構成や展開を工夫して、話したり書いたりして相手に伝える、又は相互に伝え合うことができる能力を養う。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	Topic 1 Donating to Charity	○ 分詞 ・大谷翔平選手とチャリティ	中間 考查 期末 考查
	Topic 2 The Falling Yen	○ 関係代名詞の省略 ・円安	
	Topic 3 Borderless	○ 原形不定詞 ・小澤征爾	
	Topic 4 Fear of Joy?	○ SVOC、SV00 ・恐れるか、楽しむか	
2 学期	Topic 5 Protecting the City of Water	○ 比較 ・ベネチア	中間 考查 期末 考查
	Topic 6 The Home of High School Baseball	○ 不定詞(副詞的用法) ・甲子園球場	
	Topic 7 Getting Around	○ SV0+to do ・ライドシェア	
	Topic 8 Hemingway is 125	○ 関係代名詞 ・ヘミングウェイ生誕125年	
3 学期	Topic 9 Medicines on Wheels	○ 形式主語 ・移動薬局車	学年 末考 査
	Topic 10 Are EVs Really Clean?	○ 間接疑問 ・EVは本当にクリーンか?	
	Topic 11 Cleaning Up Space	○ 仮定法 ・宇宙の掃除	

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙、表現、文法の知識を身に付けている。 - 外国語の音声、語彙、表現、文法を、聞くこと・読むこと・話すこと〔やり取り・発表〕・書くことによる実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。	- 場面・目的・状況等に応じて、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。 - 外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、外国語を用いて、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。	- 外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的にコミュニケーションを図ろうとしている。 - 他者を尊重し、聞き手・読み手に配慮しながら、外国語で自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。

評価方法	定期考查のほか、授業での小テストやパフォーマンステスト、課題への取組や授業態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	間違いを恐れずに、積極的に英語を話したり書いたりするように努めましょう。日頃から外国の文化やニュースにも関心を持ちましょう。